

ZeeM
固定資産管理
ユースケース

IFRS対策から物品管理の一元化、
予算作成シミュレーションまで
使い勝手の良さが決め手！
固定資産管理業務の改善事例



株式会社クレオ

はじめに

ZeeM 固定資産管理のユースケース

累計2000社の導入実績を誇る会計・人事給与システム「ZeeM（ジーム）シリーズ」。そのモジュールの一つである「ZeeM 固定資産管理」は、これまでに多くの企業の資産管理業務の改善を支援してまいりました。

本ホワイトペーパーでは、ZeeMシリーズの営業担当者としてお客様のさまざまなニーズにお応えし、顧客担当エンジニアとして技術支援の経験も持つ高橋利雄（営業部）が、5つの切り口で「ZeeM 固定資産管理」のユースケースをご紹介します。

聞き手は、ZeeMシリーズの営業に長年携わり、現在はマーケティングを手掛けている販売企画部部長の平田恵輔です。



高橋利雄（営業部）

目次

はじめに

ZeeM 固定資産管理とは

ユースケースA : IFRS対策を考慮した資産管理や組織変更にともなう資産異動に柔軟に対応

ユースケースB : 各工場への資産管理業務の分散と本社による資産情報の一元管理を同時に実現

ユースケースC : 契約書などの各種書類を添付ファイルで一元管理して効率的で確実な固定資産管理を実現

ユースケースD : 柔軟なシミュレーション機能を活用して来期以降の償却費を容易に把握

ユースケースE : ハンディターミナルと連携した資産管理もアドオン開発で柔軟に対応

まとめ

・・・ 2

・・・ 5

・・・ 8

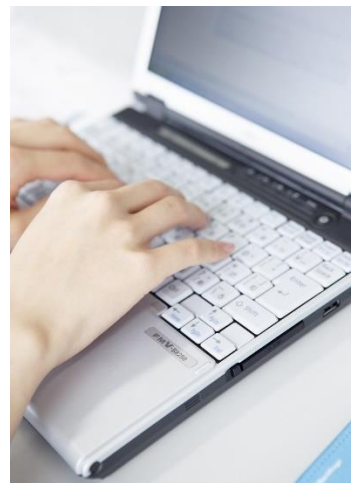
・・・ 11

・・・ 14

・・・ 17

・・・ 20

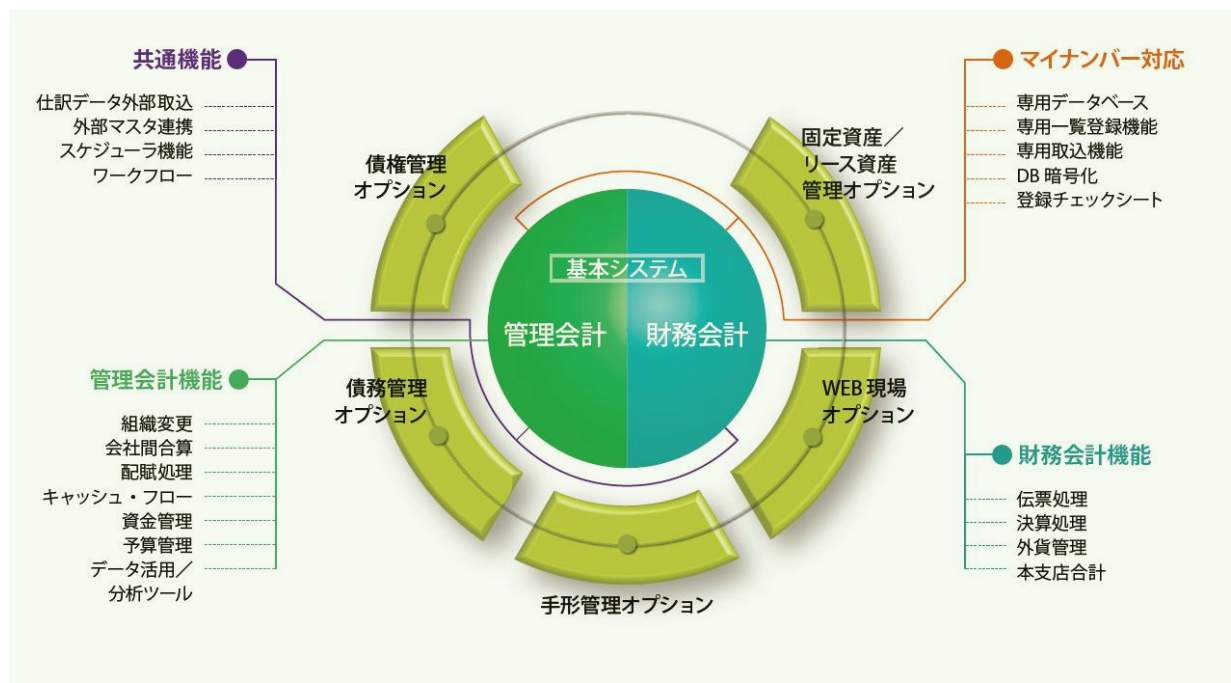
ZeeM 固定資産管理とは



ZeeM 固定資産管理とは

「ZeeM 会計」および「ZeeM 固定資産管理」は、財務会計と管理会計を統合した基本システムを中心に、各種モジュール（オプション）を連携させた会計情報システムです。

「ZeeM 会計」で債権管理・債務管理・手形管理・WEB経費申請を、「ZeeM 固定資産管理」で資産管理をカバーし、経理業務全般をワンストップでサポートします。なお、「ZeeM 固有資産管理」は「ZeeM 会計」とマスターデータを一元管理するといった、オプションとしての使い方だけでなく、単独で導入することもできますので、既存の会計システムの運用を続けながら資産管理業務を強化することも可能です。



ZeeM 固定資産管理の特長

きめ細かな資産管理を実現

資産分割機能を利用することで、きめ細かく資産を管理でき、IFRS対策だけでなく、組織変更にとまなう資産異動などにも柔軟に対応します。

きめ細かな権限設定によるデータの一元管理

権限設定により、データ登録を各現場に任せつつ、本社で一元管理できます。
データ集計の手間が省けるだけでなく、集計ミスもなくなります。

画像添付などによる物品管理の効率化

契約書などの関連資料を画像データとして紐付け、資産情報と管理情報を一元的に扱うことで、物品管理業務を効率化します。

シミュレーションによる財務資産(償却)状況の把握と分析

実データからコピーしたシミュレーション用データにより、将来の資産取得や除売却を行うことで、月別・部門別や、来期／5年／10年先の償却状況を分析できます。

アドオン開発の確かな技術力

20年以上にわたって培った会計システムのノウハウと、豊富な業務知識により、必要に応じてアドオンを開発し、きめ細かいお客様のニーズにも柔軟に対応します。

ZeeM Report [Case Study Collection_20161130-2]

Use Case A

ユースケースA

IFRS対策を考慮した資産管理や
組織変更にもともなう資産異動に柔軟に対応

ユースケースA

IFRS対策を考慮した資産管理や
組織変更にもなう資産異動に柔軟に対応

A社の企業情報

事業内容 : プラント建設
売上高 : 約290億円
従業員数 : 約250名
システム構成 : ZeeM 会計 + ZeeM 固定資産管理

ZeeM導入の背景と経緯

平田 : A社様は、IFRS対策を見据えて、「ZeeM 会計」と「ZeeM 固定資産管理」を一緒に導入されたということですが。

高橋 : A社様は、特定分野のプラント建設で世界的にも大きなシェアを誇っているだけに、早急にIFRSに対応したいとお考えになり、同時に導入されました。

平田 : 導入前はどんな状況だったのでしょうか？

高橋 : 販売管理システムや会計システムなどを一体化したスクラッチの基幹系システムを運用されていました。しかし、管理会計の機能が不足していて、Excelでの資料作成などに時間をとられていたようです。

平田 : それでZeeMに注目されたわけですね。

高橋 : はい。管理会計の得意な「ZeeM 会計」を、基幹系システムと連携させることにしました。つまり、基幹システムでいったん処理した仕訳データを「ZeeM 会計」に渡し、月次報告書などの管理帳票を出力させています。また、標準様式以外で報告書の提出を求められた際も、「ZeeM 会計」ならどの画面からも帳票の形でファイル出力ができますから、Excelによるデータ加工の手間が省けるようになりました。

平田 : 「ZeeM 固定資産管理」についてはどうでしょう？

高橋 : 以前利用していた資産管理パッケージは、例えば複数のパソコンを同時に購入したときに1資産として登録していたため、資産の一部移動処理に手間が掛かり、IFRS対策としては不十分でした。それが、例えば、営業部で管理していた10台のパソコンの半分を他部門に移すといったときにも、「ZeeM 固定資産管理」の一部移動処理機能で対応できるようになったため、IFRS対策としても十分な効果があるようです。それから、A社様はプラント建設などを請け負っていることもあり、償却期間が長期に及ぶ大型資産を多数お持ちですが、「ZeeM 固定資産管理」のシミュレーション機能を利用することで、3年後、5年後の資産状況も正確に把握できるようになったと喜ばれています。

Use Case A

A社における導入効果

資産の詳細管理が実現

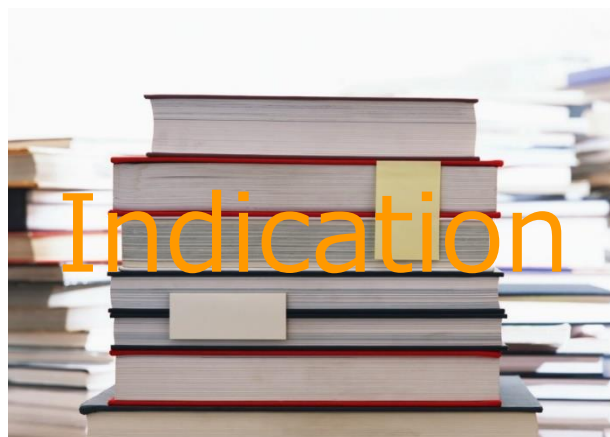
資産分割機能により、複数資産を効率的かつきめ細かく管理できるようになり、組織変更やIFRSへの対策が容易になりました。

柔軟な帳票レイアウトが可能

ファイル出力機能により、標準帳票以外のレイアウトでの出力が容易になり、各部門の要求に応じて効率的に資料を作成できるようになりました。

シミュレーションの精度が向上

償却シミュレーション機能を利用することで、正確かつスピーディな計算が行えるため、予算額を迅速に把握できるようになりました。



ZeeM Report [Case Study Collection_20161130-2]

Use Case B

ユースケースB

各工場への資産管理業務の分散と
本社による資産情報の一元管理を同時に実現

ユースケースB

各工場への資産管理業務の分散と本社による資産情報の一元管理を同時に実現

B社の企業情報

事業内容 : 製造（食品）
売上高 : 約700億円
従業員数 : 約700名
システム構成 : ZeeM 固定資産管理

ZeeM導入の背景と経緯

平田 : B様は、もともとスクラッチで構築した固定資産管理システムで運用されていたようですが。

高橋 : はい。税制変更や税務帳票の変更の度にシステムを改修する必要があり、その手間やコストを考えて、税制改正に柔軟な固定資産管理パッケージの導入を検討されたようです。それともう一点。B様では工場を全国に5つ展開していますが、各工場がそれぞれ固定資産管理システムを運用し、そのデータを本社側で取りまとめていたため、各工場と本社間で集計ミスが発生したり、業務の一部が重複していたりと、業務品質と効率性にも問題を抱えていました。そこで、本社側で一元管理しつつ、各工場で資産管理業務を行えることも、固定資産管理パッケージを選定する上で重要なポイントだったと伺っています。

平田 : 大抵のパッケージ製品が、複数拠点で情報をエントリーして、本社で一元的に全社の情報を管理するということも無理なくできるかと思います。その中でB様が ZeeMを選んだポイントはどこにあったのでしょうか。

高橋 : 選定当初は、多くのパッケージ製品が選定対象に挙がっていたようですが、その中でも、安価なパッケージ製品は、複数拠点で扱う際のセキュリティコントロールや、一元化した情報をきめ細かく把握・分析するためのシミュレーション機能にやや不満があったようです。そこで、それらの要望を満たすものに絞り込んだ上で、コストパフォーマンスを優先したところ、ZeeMが最適な固定資産管理パッケージだったということです。

平田 : 実際に「ZeeM 固定資産管理」を導入したことで、B様の資産管理業務は改善されたのでしょうか？

高橋 : はい。いままでは、各工場の資産管理システムで処理したデータを、本社側の担当者が手作業でまとめていましたが、「ZeeM 固定資産管理」が自動的に処理するため、人為的な集計ミスが一切なくなりました。また、棚卸しのタイミングに合わせて、本社側でチェックリストを作成・配布したり、担当者を出張させたりする必要もなくなったため、業務効率化の効果は非常に大きいようです。

平田 : 各工場への業務の分散と、本社による情報の一元管理を両立させることで、全社的に効率的で正確な資産管理が実現したということですね。

B

B社における導入効果

Use Case

きめ細かな権限設定により、工場単位での操作を実現

全社的に統合されたマスターデータを用いながら、きめ細かな権限設定を行い、新規資産登録や異動資産登録などが現場で確実に行えるようになりました。

本社管理部門では、全資産の把握が容易に

本社側の管理部門では、それぞれの工場の資産情報を参照できるため、正確かつ効率的に全社の資産を取りまとめることができました。



ZeeM Report [Case Study Collection_20161130-2]

Use Case C

ユースケースC

契約書などの各種書類を添付ファイルで一元管理して
効率的で確実な固定資産管理を実現

ユースケースC

契約書などの各種書類を添付ファイルで一元管理、効率的で確実な固定資産管理を実現

C社の企業情報

事業内容 : 製造（電子部品）
売上高 : 約150億円
従業員数 : 約200名
システム構成 : ZeeM 固定資産管理

ZeeM導入の背景と経緯

平田：C様は、「ZeeM 固定資産管理」の画像添付ファイル機能を効果的に利用されているようですが。

高橋：以前は、各資産の契約書や申請書、見積書などの各種書類は、ファイルに綴じて棚に保管していたそうです。ところが、管理している書類と、資産管理システム上のデータが紐付いていないため、資産の契約内容や購入先を知りたくても、すぐに目的の書類が見つからなかったり、紛失していても気づかなかったりすることがありました。もちろん契約書などをPDF化すれば、システム上で管理することができますが、当時のパッケージ製品では、資産データに1種類のファイルしか添付できないため、例えば契約書のPDFファイルと、資産を撮影した画像ファイルの両方を一緒に管理できませんでした。そこで、複数のファイルを添付できる「ZeeM 固定資産管理」を導入することになりました。

平田：棚卸しのときなどに、現物と画像ファイルを簡単に比較できれば、確認ミスなどもなくなりますね。他にはどんな導入効果があったのでしょうか？

高橋：もう一つ、「ZeeM 固定資産管理」には自由管理項目という機能があり、それが思いの外、役に立っているそうです。

平田：具体的にはどのようなことでしょうか？

高橋：例えば「使用者」「管理責任者」「契約書番号」といった項目を立てて、棚卸し用のチェックリストを作成しています。現場では、このリストを使って棚卸しをしますから、もし見つからない資産があったとしても、「使用者」や「管理責任者」にすぐ問い合わせることができるようになったそうです。

平田：棚卸しがずいぶん効率的になりますね。

高橋：それから、資産に貼るラベルシールのデータは、Wordの差し込み印刷機能を使って出力すれば良いので、誰でも簡単にラベルシールを作成するなど、便利に利用していたいているようです。



C社における導入効果

Use Case

画像添付ファイルによる情報の一元化

画像ファイル添付機能で、資産の画像や契約書（PDF）などの関連情報をまとめて登録し、必要なときに必要な書類を素早く探せるようになりました。

自由管理項目の有効活用

自由管理項目を利用し、「使用者」や「管理責任者」などを登録しておくことで、資産が紛失したり、見当たらなくなったりしたときの確認が容易になりました。

使い勝手の良さで現場作業を効率化

資産に貼るラベルシールを出力したり、部門別や設置場所別の棚卸し用のチェックシートを作成したりすることで、棚卸しなどの作業が効率化しました。



ZeeM Report [Case Study Collection_20161130-2]

Use Case

D

ユースケースD

柔軟なシミュレーション機能を活用して
来期以降の償却費を容易に把握

ユースケースD

柔軟なシミュレーション機能を活用して
来期以降の償却費を容易に把握

D社の企業情報

事業内容 : サービス業（娯楽業）
売上高 : 約200億円
従業員数 : 約400名
システム構成 : ZeeM 会計 + ZeeM 固定資産管理

ZeeM導入の背景と経緯

平田 : D社様は、もともと海外製のERPパッケージをご利用されていたということですが。

高橋 : はい。「ZeeM 会計」と「ZeeM 固定資産管理」をご導入いただく前は、海外製ERPパッケージをご利用になっていました。ただ、海外製品にはよくあることですが、日本の商習慣に合わない部分があり、その点が課題だったようです。また、月々のランニングコストが高くつくこともご不満でした。そこで、国産パッケージへの変更を検討し、ZeeMを導入されました。

平田 : 日本の商習慣に合わないというのは？

高橋 : やはり、固定資産管理システムについては、税率変更、固定資産税や別表十六の様式の変更など、税制改正に対してスピーディに対応できなかったことが問題だったようです。

平田 : 日本の商習慣への対応ということに限れば、国産パッケージならどれもクリアしているかと思いますが、その中で「ZeeM 固定資産管理」を選定された理由はなんだったのでしょうか？

高橋 : シミュレーション機能が充実していることです。企業経営に減価償却費が与える影響は小さくありませんので、D社様でも3年後、5年

後の状況をきめ細かくシミュレーションし、設備投資のタイミングを判断するといった使い方を望まれていました。

平田 : 「ZeeM 固定資産管理」のシミュレーション機能をご評価いただいたとのことですが、実際にご活用いただけているのでしょうか？

高橋 : はい。地域別の担当制で事業を管理しているD社様では、シミュレーション機能を活用して、担当別にきめ細かく減価償却費を把握・分析しているとのことでした。

平田 : 部門別などのシミュレーションをする場合、各部門に関係する資産データだけをExcelなどに抜き出して計算することが多いかと思いますが、手間が掛かるうえに、属人化しがちで計算ミスなどもありますからね。とはいえ、慣れたExcel運用をシステム運用に移行するとなると、実務担当者の抵抗があったと思いますが。

高橋 : その通りです。ただ、実際に「ZeeM 固定資産管理」を使っていただき、操作性の高さや使い勝手の良さも評価をいただいています。最初に本社でZeeMを導入したところ、ユーザーの評判が大変良かったことから、グループ各社にもZeeMを展開することになり、現在、グループ展開を進めているところです。

D社における導入効果

Use Case

D

より精度の高いシミュレーションを実現

将来の日付で取得資産登録や異動処理を行えるため、来期以降の償却費の把握が容易になり、来期以降のシミュレーションの精度が上がりました。

担当別・部門別でのシミュレーションが容易

固定資産の実データから、担当別・部門別のシミュレーション用データを簡単に作成できるため、さまざまなパターンで予算立案を検討できるようになりました。



ZeeM Report [Case Study Collection_20161130-2]

Use Case

E

ユースケース E

ハンディターミナルと連携した資産管理も
アドオン開発で柔軟に対応

E社の企業情報

事業内容 : 情報通信業
売上高 : 約500億円
従業員数 : 約750名
システム構成 : ZeeM 会計 + ZeeM 固定資産管理

ZeeM導入の背景と経緯

平田 : E 様は、自社開発した固定資産管理システムの更新を見送り、「ZeeM 固定資産管理」に切り替えられたそうですが。

高橋 : E 様が自社開発した資産管理システムは、開発当初は、自社の業務に適合し利便性も高かったのですが、税制が改正される度に社内のエンジニアが改修にあたっていたため、毎回、改修コストが発生するだけでなく、対応にも時間がかかり業務に支障をきたすリスクを抱えていました。当時、会計システムの更新を予定していたため、合わせて固定資産管理システムも見直すことになりました。最終的に「ZeeM 固定資産管理」をご選定いただいたのですが、決め手となったのは、アドオン開発の柔軟性だと伺っています。

平田 : なぜ、アドオン開発が決め手だったのでしょうか？

高橋 : E 様では数十万の固定資産を管理されています。これだけの資産を手作業で管理するのは大変ですから、以前からハンディターミナルのシステムを活用されていました。このシステムを今後も使い続けるために、固定資産管理システムとの柔軟なデータ連携が必要でした。

平田 : ハンディターミナルシステムと「ZeeM 固定資産管理」のデータ連携のために、アドオン開発を行ったということですね。

高橋 : はい。「ZeeM 固定資産管理」には、ハンディターミナルシステムとの連携機能が標準で備わっていませんが、アドオン開発することで、固有のご要件にも柔軟に対応することができました。

平田 : 実際にご導入いただいて、他にご評価いただけたところはあるですか？

高橋 : 部門按分のための配賦処理が容易で、使い勝手がいいことを評価していただいています。例えば「全社共通」として登録し、営業部、総務部・経理部の3部門で按分するといった処理を自動的に行えるため、処理プロセスを簡略化し、資産管理業務の大幅な効率化を実現しています。



Use Case

E社における導入効果**アドオン開発によるハンディターミナルと連携**

ハンディターミナルシステムとの連携をアドオン開発で柔軟に対応しました。
税制改正時にも、アドオン保守の適用により、迅速かつ低コストで対応できます。

部門按分のための配賦処理の自動化

部門按分のための配賦処理の自動化などなど、各種業務が効率化しました。また
「ZeeM会計」との連携により、シームレスな仕訳連携が実現しました。



まとめ

使い勝手の良さが最大のアドバンテージ
機能と価格のバランスに優れたZeeM 固定資産管理

使い勝手の良さが最大のアドバンテージ 機能と価格のバランスに優れたZeeM 固定資産管理

資産管理システムの導入を検討されている お客様へ

平田：今回は5つの切り口で、「ZeeM 固定資産管理」の活用例をお聞きしてきましたが、お客様の声をまとめるとどんなことが言えるでしょうか？

高橋：今回ご紹介したお客様だけでなく、実に多くのユーザーの方々が声を揃えておっしゃっているのは、使い勝手の良さです。

平田：機能が豊富で、操作性が高いということでしょうか？

高橋：必ずしもそれだけではないのです。機能を満載したシステムはどうしても高価になりがちです。また、多機能といっても、ごく一部のユーザーしか使わない機能が多数含まれていたいりしますから、かえって使いにくいということがあります。一方で「ZeeM 固定資産管理」は、ユーザーの立場で実務に有効な機能を厳選して搭載しているため、結果的に使いやすいということになるようです。もちろん、B社様の例にあるように、機能不足で業務に対応できないということも

ありませんし、E社様のように固有の要件にもアドオンで対応するといった柔軟性も兼ね備えています。つまり、機能と価格のバランスが取れているといったところが「使い勝手が良い」という評価につながっているんだと思います。

平田：自社に最適化された固定資産管理システムの導入を、適正なコストで実現したいというお客様のご要望に、機能と価格のバランスでZeeMは応えているということですね。

高橋：そういうことです。投資を極力抑えつつ、現場の業務効率や業務品質をさらに向上させることは、システムを選定する担当者にとっては最も重要なテーマだと思います。システムの見直しを検討されている資産管理担当者の方々には、「ZeeM 固定資産管理」をぜひ一度ご覧いただきたいと思います。

本資料を最後までお読みいただき誠にありがとうございます。
今回は、固定資産管理をテーマに、実担当者からのユースケースレポートによる“具体的かつ現実的”な課題対策の情報提供をさせていただきました。

貴社の固定資産管理の一助になれば幸いです。

株式会社クレオ
ソリューションサービスカンパニー
マーケティング本部プロモーション部

本紙及びZeeM製品に関するお問い合わせ



株式会社クレオ

ソリューションサービスカンパニー

マーケティング本部プロモーション部

担当 平田／多胡（たご）

TEL : 03-5783-3540 FAX : 03-5783-3541

<https://www.zeem.jp/>

- ※ この資料は著作権によって保護される内容が含まれています。内容の全部または一部を著作者の許可なく複製、改変することは著作権法の許可事項を除いて禁止されています。
- ※ 「ZeeM」の名称は株式会社クレオの登録商標です。
- ※ 本製品の仕様及び性能は予告なく変更されることがありますのでご了承ください。